

「多様性の尊重」への取り組み

“
私たちの
取り組み”

- ▶ インクルーシブな職場環境を実現した先進的な事例を提示する
- ▶ 多様な人財を育成し、地域社会のニーズに応え続ける



多様性の尊重
ジェンダー
年齢/世代
障がい者支援
LGBTQ



▶ CSV Goals進捗

2025年までに女性管理職比率6%と掲げていた目標を2021年1月に前倒しで達成し、2030年までに20%という新たな目標を掲げました。すべての社員が自律的で輝けるキャリア形成ができる企業文化を醸成するために、環境やサポート体制の整備など、積極的に取り組みを推進しています。

ダイバーシティ&インクルージョンの取り組み

CCBJHグループは、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)の推進を、経営戦略における優先事項のひとつと位置付けています。環境やお客さま、消費者の多様なニーズに対応し、グループが持続的に成長していくために、多様性のある職場環境をつくり、さまざまなバックグラウンドや価値観

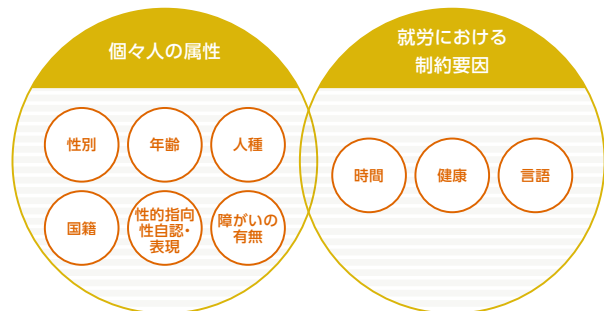
を持つ社員一人ひとりが学ぶ向上心を忘れず能力を発揮する職場環境を構築しています。

また、マネジメント体制も、国籍や性別、年齢や経歴など多様性をふまえて取締役を起用し、多様な角度から課題を捉えて議論し、意思決定を行うことで、さらなるダイバーシティ経営の実現を目指しています。

ダイバーシティ&インクルージョン中長期ビジョン

社員一人ひとりの多様性を尊重することで、性別、年齢、障がいの有無、人種、国籍、性的指向、性自認または表現などの属性、また就労におけるさまざまな制約要因にかかわらず、すべての社員が能力を最大限に発揮できる機会を提供していきます。

個々人の属性や就労における制約要因にかかわらず
すべての社員が能力を最大限に発揮できる機会を提供



「多様性の尊重」への取り組み

<https://www.ccbji.co.jp/csv/inclusion/>



ジェンダー

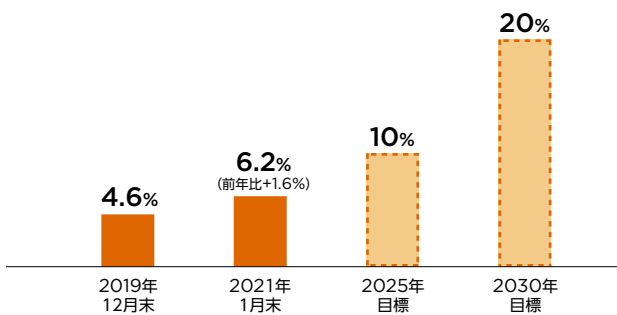
女性活躍推進の取り組み

● 女性管理職比率の目標を20%へ更新

CCBJHグループは、社員一人ひとりの個性を尊重し、多様な価値観やアイデアを積極的に取り入れ革新を生み出し続けるために、女性活躍の推進に取り組んでいます。産休・育休によるブランクや時間的制約など、本人の意欲や能力とは関係ない要因により、復職や昇進を諦める女性社員が多数いる自社の現状を省み、性別を問わず全ての社員が、仕事と子育て・介護を両立できる環境、自律的なキャリア形成を考えることができる企業文化の醸成を目指しています。

管理職における女性比率の向上につながるよう、成果をあげて昇進という選択肢を積極的に選ぶ女性社員が増える環境・サポート体制を推進しています。「2025年までに女性管

女性管理職比率



理職比率6%」と掲げていた目標を2021年1月に前倒しで達成しました。更なる進化を目指して、2025年に10%、2030年には20%に引き上げるという新たな目標を設定しています。

● 柔軟な働き方の実現

仕事と子育て・介護の両立を実現するためには、時間や場所に捉われない柔軟な働き方を取り入れることが不可欠です。2020年は、コアタイムのないスーパーフレックスの導入やサテライトオフィスの拡大、営業部門の直行直帰を取り入れました。また、男性の育児休暇取得推進、継続的に組織を牽引する人材の育成強化を目的とした、女性管理職向けの「メンタープログラム」、次世代のリーダーの育成を目的とした「Female Next Leaders Program」といった研修プログラムや育児休業復職セミナーなどを実施し、さらなるD&Iの推進に努めています。



女性社員の声をウェブサイトでもお届けしています。

WEB 女性社員働き方座談会
<https://www.ccbji.co.jp/recruit/newgraduates/special/crosstalk02.html>



リーダーとしての ステップアップを 目指して

若林 奈津子

ケイパビリティ デベロップメント統括部
ケイパビリティ デベロップメント 部長

「管理職になりたくない」と考えている女性が多いと言われてはいますが、実は私もそう考えていました。自分には責任が重すぎると辞退した管理職試験でしたが、それでも受けるよう勧めてくれた当時の上司に、今は大変感謝しています。ステージが変わったことで学べたことが多くあります。リーダーとして方向性を示し、チームの“Happiness”を上げることで生産性を上げられるよう日々、創意工夫しています。こうした試行錯誤を重ね、メンバーとともに学び続けることが、私自身の成長や会社の業績向上に繋がると信じています。

撮影:The Dream Collective



年齢／
世代

次世代リーダー育成プログラム

CCBJIは、日本のコカ・コーラシステムを牽引し、変革へ導く人財育成のために、次世代リーダー育成プログラム「コカ・コーラ ユニバーシティジャパン(CCUJ)」を設立しました。ザ コカ・コーラ カンパニーと連携してグローバルのリーダーシッププログラムや海外研修を導入し、海外のボトラー社でも活躍できる人財の育成を目指しています。

また、英語力強化プログラム「GET(Global English Transformation)」では、海外からの知見を学ぶだけでなく、昇進につながる英語力開発もサポートしています。これらの取り組みを組織全体の活性化や成長につなげ、グローバルに活躍できる人財づくりを目指しています。



障がい者
支援

パラアスリートの活躍

CCBJIと学校法人日本経済大学は、多様性社会で求められるリーダーシップ像について学生とともに考える機会を創出するため、2020年12月「リーダーシップ論」について、当社所属のパラアスリートである政成晴輝が特別講義を実施しました。当日は、対面とオンラインで講義を実施し、自身の人生の転機(障がい発覚前と後)や、パラアスリートとしてのさまざまな経験から、リーダーシップには多種多様な形があり、チームのなかで自分の役割を考え全力で務めを果たし、どんなことにもチャレンジを続けることの大切さについて学生のみなさんへお伝えしました。今後もあらゆるパートナーのみなさまと連携をはかり、多様性が尊重される社会づくりに注力していきます。



※管轄の公共職業安定所長あてに提出している「障害者雇用状況報告書」
※2020年はCCBJI、CCBJBの特例子会社化による2社合算
※2019年はCCBJI単独



障がい者の 活躍

長島 美紀

コカ・コーラ ボトラーズジャパンベネフィット株式会社
ビジネスサポート事業部
ビジネスサポート事業推進リーダー

CCBJHグループのひとつであるコカ・コーラ ボトラーズジャパンベネフィット(CCBJB)は2019年9月に特例子会社として認可されたことを受け、障がい者の雇用促進のためのより良い仕組みづくりに注力しています。少しずつ他部門からの評価と信頼をいただきながら、難易度の高い事務サポート業務に挑戦するなど、積極的に業務の幅を広げています。2020年も多彩なスキルを持つ10名の仲間が新たに入社し、いきいきと活躍しています。今後も一人ひとりが笑顔でやりがいを感じることができる環境整備や定着支援、育成などに取り組み、CCBJHグループに貢献していきたいです。



LGBTQ

LGBTQへの平等な機会を 提供するために社内規定を改定

CCBJHグループは、D&I推進の取り組みとして、多様な社員、社内の性的マイノリティ(LGBTQ)に対して平等な機会を提供するために、2020年1月より社内規程(就業規則など)における配偶者の定義を改定しました。これにより、パートナーの性別や婚姻関係の有無にかかわらず、育児休暇や介護休暇などの福利厚生制度を利用できるようになりました。また、人権ポリシーおよびダイバーシティ&インクルージョンポリシーの記載に性的指向に加え、「性自認または表現」を追加しました。全社員を対象としたe-ラーニングの研修を実施するなど、全社をあげて意識改革に取り組んでいます。

2020年12月には、婚姻の平等に賛同する企業を募るキャンペーン「Business for Marriage Equality(BME)」への賛同を表明しました。

BMEは、日本国内における同性婚の法制化(婚姻の平等)に賛同する企業を可視化することを目的に運営されています。



Business for Marriage Equality

また、「work with Pride」が策定する評価指標の「PRIDE指標2019」において、LGBTQに関する当社の取り組みが評価され、初めての挑戦で最高位の「ゴールド」を受賞しています。

LGBTQ

管理職を対象とした アンコンシャスバイアスに対する 研修を実施

管理職1,263人を対象とした無意識の偏見(アンコンシャスバイアス)に関する研修や約16,000名の全社員を対象としたLGBTQの基本的な理解促進のe-ラーニングを実施するなど、社員の意識改革に取り組んでいます。また、新卒・中途入社者への研修では、LGBTQへの理解促進を目的としたプログラムも実施しています。D&Iの中長期ビジョンに基づき、変革・革新を生み出し、価値創造につなげ、競争力を高めていくことを目指しています。

● 「work with Pride」とは

日本の企業内でLGBTQの人々が自分らしく働ける職場づくりを進めるための情報を提供し、各企業が積極的に取り組むきっかけを提供するために、年に一回、企業・団体の人事・人権・ダイバーシティ担当者を主な対象に、LGBTQに関するカンファレンス「work with Pride」を開催しています。

● アンコンシャスバイアスとは

アンコンシャスバイアスとは無意識の思い込みのことです。生活する中で、各々が無意識のうちに偏ったものの見方をしてしまっていることを指します。

多様な人材が働きやすい職場環境づくり

CCBJHグループでは、多様な人材が働きやすい環境づくりをマネジメント主導で迅速かつ柔軟に推進しています。これらの取り組みが評価され、企業の働きやすさに関するさまざまな外部評価を獲得しています。



このほか、2019年度「東京都障害者雇用エクセレントカンパニー賞」産業労働局長賞を受賞。

「地域社会」への取り組み

“
私たちの
取り組み
”

- ▶ 私たちが暮らし、働く地域社会とのパートナーシップというかけがえない財産を大切に、多様なニーズや高い目標に応えていく
- ▶ 地域社会の潜在的な力を活かし、各プラットフォームの活動を推進する



地域社会

- 全国規模で行う2つのプラットフォーム(多様性の尊重、資源)で影響力を発揮
- 持続可能で、且つ、地域にも関連性のある取り組み



▶ CSV Goals進捗

広島工場の見学施設が完成、えびの工場の緑化への取り組みが内閣総理大臣賞を受賞、またホッケー部が国内大会で三冠を達成するなど、活気ある地域づくりに力を入れています。さらに、地域との新たなコミュニケーションツールとなるバーチャル工場見学やオンラインセミナーを開始しました。

カンパニースポーツ

スポーツで地域を元気に

CCBJHグループは、「コカ・コーラレッドスパークス ラグビー部(男子)」と「コカ・コーラレッドスパークス ホッケー部(女子)」を運営しています。両チームは、試合を通じて地域のみなさまに感動をお届けするだけでなく、地域のイベントへも積極的に参加し、明るく活気ある地域づくりの一助を担っています。

「コカ・コーラレッドスパークス ラグビー部(男子)」は、トップチャレンジリーグに加盟し、福岡市を本拠地に活動しています。2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により多くの試合やイベントが中止されたため、選手やコーチが自宅で行えるエクササイズ動画を配信するなど、みなさまの健康を維持するために外出自粛による運動不足を解消する新しい取り組みを実施しました。

「コカ・コーラレッドスパークス ホッケー部(女子)」は、ホッケー日本リーグに加盟し、広島市を本拠地に活動しています。練習や試合が制限される中、国内3大会*を制覇し、創部以来初となる年間タイトル完全制覇を達成しました。その功績が地域に元気を与えたとして、「広島県知事表彰」や「令和2年度広島市民賞」をはじめ、自治体や地域から数多くの賞を受賞しました。

*女子第42回全日本社会人ホッケー選手権大会、高円宮杯2020ホッケー日本リーグ、第81回女子全日本ホッケー選手権大会



自宅で行えるエクササイズ動画を配信



※ラグビー部の活動は2021年末で終了します。これまで応援いただきましたすべてのみなさまへ感謝申し上げます。



創部以来初!年間タイトル完全制覇を達成



「地域社会」への取り組み
<https://www.ccbji.co.jp/csv/community/>



活性化
支援

新・広島工場 地域とのコミュニケーション拠点が完成

2020年10月、広島工場（広島県三原市）内に見学施設が完成しました。広島工場見学では、「製造工程を見る」ことに加え、「製造工程を体感」いただく新しいコンテンツを提供します。また、「コカ・コーラ」の歴史・ブランドを紹介する充実したコーナーや、旧本郷工場の被災から最先端の新たな広島工場への復興の歩みを映像や写真でお楽しみいただけます。

CCBJHグループは、工場見学をお客さまや得意さまをはじめとするあらゆるステークホルダーのみなさまとのダイレクトコミュニケーションの場と位置づけています。2020年2月末より新型コロナウイルス感染症拡大防止のため工場見学会を一時休止していますが（2021年5月時点）、当社のウェブサイトにバーチャルで工場見学を体験いただけるコンテンツを開発するなど、これからも、新しい手法で地域のみなさまとのコミュニケーションに注力していきます。

▶▶ PLANT TOUR

 <p>1 ボトルシアター</p>	 <p>2 ストーリーアベニュー</p>	 <p>3 プラントロード</p>	 <p>4 ハビネステラス</p>	 <p>5 レッドディスクラウンジ</p>
<p>世界に一つの巨大なPETボトルの中へ飛び込んでいくシアタールーム。</p>	<p>「コカ・コーラ」の歴史や主要ブランドなどについて紹介するミュージアムゾーン。</p>	<p>「コカ・コーラ」の製造工程を窓越しに見学するとともに、ワクワクする特別な体験も。</p>	<p>2つ目のシアタールームであり、物流や自動販売機の紹介も。</p>	<p>製品試飲のほか、フォトスポットやグッズの販売も。</p>



地域活性化のために、 市として最大限の支援に 努めます

岡田 吉弘氏
広島県三原市
市長



新設された広島工場は、製造ラインの自動化や最新のIoT技術が導入された中国・四国エリアの中核を担う重要な工場で、さらなる工場拡張も可能と伺っています。また、魅力的な工場見学コースも加わり、空港エリアの観光・商業施設との組み合わせによる周遊コース、産業観光のコースとしても新たな観光誘客への高いポテンシャルを感じています。今後、雇用をはじめ本市および広島県の地域経済活性化に多大なる貢献をいただけるものと確信しており、広島工場の事業発展に向け、最大限の協力・支援に努めてまいります。



升井 慎一
広島工場
工場長

2018年CCBJ本郷工場が西日本豪雨で被災し、たった1年11カ月で新たな広島工場が稼働を開始しました。「地元で復活したい」と願う旧本郷工場のメンバーの想いと会社の想いが合致し、旧工場からわずか4kmほどの地点に構えたのが広島工場です。「製造工程を体感」いただく新しいコンテンツを提供します。製品の安定供給はもとより、地域のみなさまとのコミュニケーションの場としても機能させ、三原市の発展に寄与できるよう尽力してまいります。

環境支援

えびの工場「令和2年緑化推進運動功労者
内閣総理大臣賞」受賞

CCBJIえびの工場(宮崎県えびの市)が、緑化の推進について顕著な功績のあった個人・団体に授与される「令和2年緑化推進運動功労者 内閣総理大臣賞」を受賞しました。

えびの工場は、南部九州エリアの重要な生産・物流拠点であるとともに、自然豊かな環境と調和した公園工場として、年間7万人以上の方々に工場見学を体験いただき、屋外の来場者を含めると15万人という多くの方々に感謝を申し上げます。



ています。また、工場の水源域において、えびの市や森林組合と協定を結び森林保全活動を実施し、水資源保護の推進も行っていきます。毎年4月に行われる「みどりの式典(内閣府主催)」における表彰式が、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となったため、2020年11月に宮崎県庁にて開催された表彰伝達式にて受賞しました。



えびの市の
良きパートナーとして、
益々の発展を期待しています

村岡 隆明氏
宮崎県えびの市
市長



えびの工場の緑化推進運動功労者 内閣総理大臣賞受賞おめでとうございます。当市において、いち早く緑化への取り組みを行っていただいた成果であり、大変嬉しく存じます。また、同工場が当市の豊かな自然と調和した地域に開かれた工場として、市民の憩いの場となっていることに感謝申し上げます。

えびの市内では、貴社と同じように緑化推進に取り組む企業も増えております。当市を牽引するリーディングカンパニーとして、また当市の信頼できる良きパートナーとして、益々のご発展をお祈り申し上げます。

課題解決
支援

地域の課題解決を目指した
地域連携プログラム

CCBJHグループでは、宮城県、福島県、三重県、宮崎県において、地域行政や教育機関、市民団体など産官学民連携のもと、若者たちが主体のワークショップや活動発表、表彰制度などさまざまな事業を通し、地域課題の解決に取り組む活動を支援しています。

2018年からは、三重県、三重大学人文学部青木研究室、特定非営利活動法人Mブリッジと当社の産官学民連携のもと、三重県の幸せな未来を思い描きながら対話を通じて、魅力向上や課題解決のアイデアを考える「私たちと社会が“しあわせ”でつながる～SDGsワークショップ ミエミライ」を開催しています。当社はこれからも、地域のみなさまが主体的に地域社会の課題解決に取り組めるよう、交流の機会と創造の場を提供してまいります。

主な活動

SDGsワークショップ
ミエミライ
(三重県)



仙台若者アワード
(宮城県)



チャレンジインターンシップ
(福島県)



奨学金事業

CCBJHグループでは、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団の支部として奨学支援事業を行っています。大学進学者のほか、サステナビリティやSDGsの推進を目的に大学院進学者も新たに奨学生として採用しました。

包括支援

地域課題への自治体との協働の取り組み

CCBJHグループでは、地域課題解決を目指し、販売エリア内の自治体や団体と災害時救援物資供給の協定や観光振

興協定を締結し、パートナーやステークホルダーとの連携を強化しています。また、飲料事業を通じて地域に価値を創出すべく、販売エリア内における地域支援自販機の設置を推進しています。

災害協定の締結

大規模災害に備えて、販売エリア内で災害協定を締結しています。これは、避難所などへの飲料水の優先的な供給や、特定の災害発生時に自動販売機内の製品を無料で提供するなど、緊急時に地域のみなさまの生活に欠かせない飲料水の確保を迅速にサポートすることを目的としています。2020年末時点、1,059の自治体や団体と協定を締結しています。

災害協定を締結している自治体・団体
1,059団体

観光振興協定の締結

千葉県、神奈川県、埼玉県、京都府などの自治体と観光振興や地域振興を目的とした観光振興協定を締結しています。本協定に基づき、地域ごとに特色あるデザインの「コカ・コーラ」スリムボトル 地域デザインを展開し、売上の一部を支援金として贈呈するなどの取り組みを進めています。

地域支援自販機の設置

販売エリア内の観光地や観光名所に独自のイラストを施した地域支援自販機の設置を推進しています。これらの支援自販機によるコカ・コーラ社製品の売上の一部がその地域の自治体やNPOなどに寄付され、地域活性化やまちづくりなどの活動資金に充てられています。



新型コロナウイルス感染症の影響で2021年に延期となった「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催に向けて、私たちは、オリンピック・パラリンピックのワールドワイドパートナーであるザ コカ・コーラ カンパニーや日本コカ・コーラと協力しながら、開催地ポトラーとして地域でのさまざまな取り組みを通じて、東京2020大会の機運醸成をはじめとした地域活性化を推進しています。

機運醸成、アスリート支援を目的とした自動販売機の展開

「東京2020オリンピック聖火リレーのプレゼンティングパートナー」である日本コカ・コーラと協力しながら、聖火リレーが通過する自治体限定で「コカ・コーラ 聖火リレーメモリアル自販機」を展開し、地域のみなさまのオリンピックへ向けた機運醸成や、地域の活性化をサポートしました。また、オリンピックやパラリンピックを目指すトップアスリートの選手強化などを目的に、「JOCオリンピック支援自販機」や「JPCパラリンピック支援自販機」の展開も行っています。



コカ・コーラ 聖火リレーメモリアル自販機

東京2020大会を契機とした自治体とのパートナーシップ

当社は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会をきっかけに、地域のパートナーとして各自治体と対話を通じた密接な連携を図るとともに、地域の活性化を目指し、教育・人材育成、防犯・防災、健康・スポーツなど、多岐にわたる分野で市民生活向上につながる取り組みを推進する包括的な協定を締結しています。



宮城県加美町との包括連携協定の調印式

「資源」への取り組み

“
私たちの
取り組み
”

- ▶ 資源を持続可能な方法で利用するために継続的な改良・工夫をする
- ▶ 日本国内の環境保全に貢献する



資源
容器/PET
水
温室効果ガス排出量
再生可能エネルギー



▶ CSV Goals進捗

World Without Wasteは、日本のコカ・コーラシステムと連携した取り組みにより着実に進捗しています。地域の自治体や企業、飲料業界団体と協働し「ボトルtoボトル」資源循環に向けた事業やプロジェクトを実施しています。また、水源涵養率は工場の水源地域のみならず新たな協定締結や協力連携の継続によって、目標を上回る進捗を遂げています。

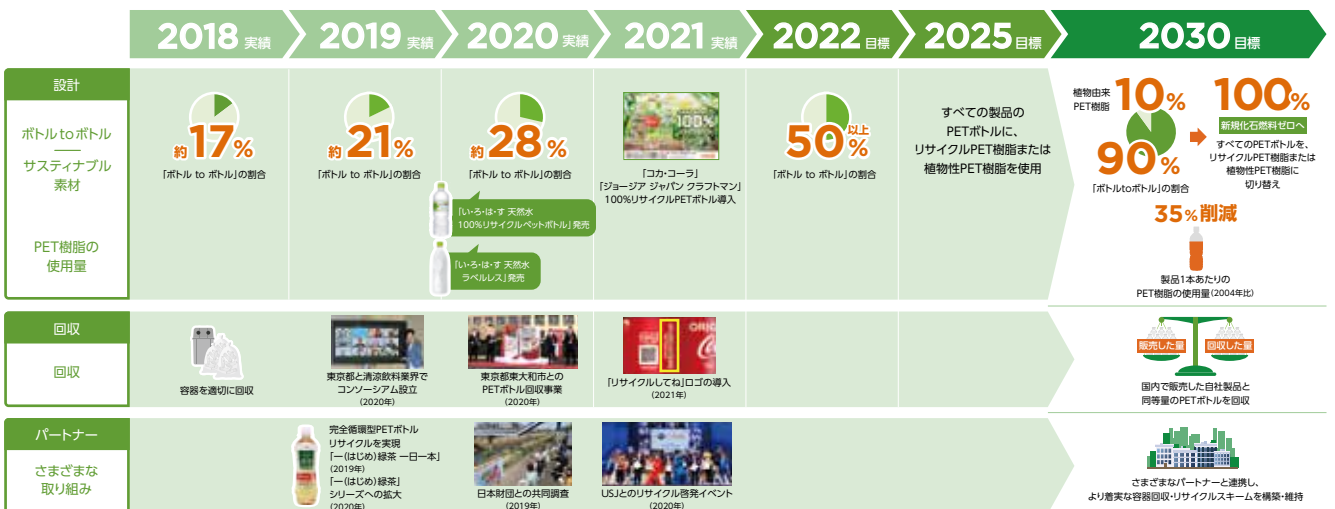
資源循環

World Without Waste 実現に向けた取り組み

日本のコカ・コーラシステムは、ザ コカ・コーラカンパニーが掲げるグローバルビジョン「World Without Waste (廃棄物ゼロ社会)」の実現に向け、「設計」「回収」「パートナー」の3つを柱とした取り組みを進めています。2025年ま

ですべてのPETボトル製品へのリサイクルPET樹脂などのサステナブル素材の使用、2030年までに販売した自社製品と同等量のPETボトルの回収、パートナーとの協働による着実な容器回収・リサイクルスキームの構築など、日本のコカ・コーラシステム独自の目標「容器の2030年ビジョン」を設定し、活動を順調に進めています。

日本のコカ・コーラシステム「容器の2030年ビジョン(ロードマップ/実績)」 2021年3月更新



「資源」への取り組み
<https://www.ccbji.co.jp/csv/environment/>



設計

ラベルレス製品の拡充

コカ・コーラシステムは、2020年8月より、「綾鷹」[爽健美茶]「カナダドライ ザ・タンサン・ストロング」のラベルレス製品の販売を、大手ネット通販チャンネルにてオンライン限定で開始しました。環境にやさしく、分別の手間がかからないラベルレス製品の導入で、家庭内消費拡大へ対応し、環境負荷低減に貢献します。



回収

東京都東大和市とのPETボトル回収事業

2020年10月、CCBJIと東京都東大和市は、「地域活性化包括連携協定」を締結し、その一環として、協働によるPETボトル回収事業を開始しました。「PETボトル自動回収機」を市内に設置するなど連携を図りながら、使用済みPETボトルを回収・再生して新たなPETボトルに生まれ変わらせる「ボトルtoボトル」の取り組みを推進しています。



回収

ウエルシアホールディングスとのリサイクル実証プロジェクト

2020年9月より、CCBJIとウエルシアホールディングス株式会社は、店頭回収したPETボトルを新たなPET原料としてリサイクルする「ボトルtoボトル」のリサイクルモデル構築を目的とし、ドラッグストア「ウエルシア」の栃木県小山市内11店舗に回収ボックスを設置した実証プロジェクトを開始しました。CCBJIは、分別されたPETボトルの収集から再原料化まで一連のリサイクル工程の設計・監修を担当し、一定の実施期間を経て、対象地域・店舗を拡大する予定です。



パートナー

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン™とのリサイクル啓発イベント

2020年9月、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンのオフィシャル・マーケティング・パートナーの日本コカ・コーラ、CCBJIは、大阪市の協力のもとパーク内にて、プラスチック循環型社会の推進に向けたリサイクル啓発イベントを開催しました。



TM & © 2021 Sesame Workshop. TM & © Universal Studios. All rights reserved.

PETボトルから作られたオリジナルデザインのエコバッグを紹介しながら、リサイクル過程をエンターテイナーたちの歌や踊りで表現し、学びの機会を創出しました。

パートナー

飲料業界における協働の取り組み

私たちは、一般社団法人全国清涼飲料連合会が2018年に発表した、2030年度までにPETボトルの100%有効利用を目指す「清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言」に賛同し、業界との協働の取り組みを進めています。2020年、東京都と設立した「ボトルtoボトル東京プロジェクト」では消費者の分別に対する行動変革やリサイクルボックスへの異物混入防止の実証実験などを実施しています。



新デザイン・リサイクルボックス
(下向き投入口式)

TOPICS

遠東新世紀(台湾)との再生PET原料に関する共同プロジェクトを実施

2020年7月、CCBJIは、世界有数の化学品メーカーである台湾の遠東新世紀株式会社と、ケミカルリサイクル*による再生PET原料を使用したPETボトルの製品化に向けた共同プロジェクトを開始しました。再生PET樹脂の原料の一部は、遠東新世紀が新たに開発したケミカルリサイクル手法により製造されます。CCBJI事業エリア内における試験販売を経て、数年後の商業化を視野に入れています。



*使用済み資源を化学的な処理で原料に戻し、リサイクルすること

気候変動

気候変動への取り組み

2021年2月、CCBJIは日本のコカ・コーラシステム最大級の保管・出庫能力を持つ自動物流センター「埼玉メガDC」の稼働を開始しました。これまで拠点で行っていた仕分けなどの物流業務、在庫保管スペースを「埼玉メガDC」に集約し、製造からお客様さまや自動販売機などのエンド・ツー・エンドまでタイムリーに製品をお届けするネットワークを構築しています。

戦略的な物流ネットワーク改革を推進する「新生プロジェクトのSHINSEIネットワーク」では、メガDCを中心に白州や熊本など新たな大型物流倉庫の導入、ハブ倉庫やセールスセンターの統廃合により、複雑なサプライチェーンネットワークの効率化に取り組んでいます。CCBJHグループは、これらの取り組みによるサプライチェーンの最適化によって、環境負荷の軽減などサプライチェーンが抱えるさまざまな問題の解決に努めています。



再生可能エネルギー

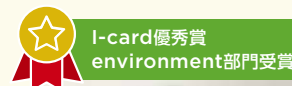
白州工場「ふるさと水カプラン」(再生可能エネルギー)の活用

白州工場では、2019年より山梨県と東京電力エナジーパー

トナー株式会社が共同で運営する電力供給ブランド「やまなしパワーPlus「ふるさと水カプラン」との供給締結により、水力発電電力の使用を開始しています。これにより、電気の使用に伴うCO₂排出量をゼロにし、環境負荷低減に取り組んでいます。

SCM部門における改善への取り組み

SCM本部では、人材育成と効果創出を目指し、職場の小さな改善から経営課題まで改善規模に応じて4段階にランク分けして課題解決に取り組む「OE認証制度」を展開しています。業務で気付いたことや改善アイデアを「I-card(改善提案)」として提出する活動が定着しており、昨年はSCM本部の社員99%が月1枚以上のI-cardを提出しました。I-cardの中で特に優れた提案は四半期ごとに表彰され、他の工場や部門に共有することでさらに改善の効果を高めています。2020年は、鳥栖工場の青沼孝俊による環境面とコスト面に貢献する「ボイラー運転見直しによるガス使用量削減」の提案がI-card「環境部門」の優秀賞を受賞しました。



青沼 孝俊 (現 基山工場)

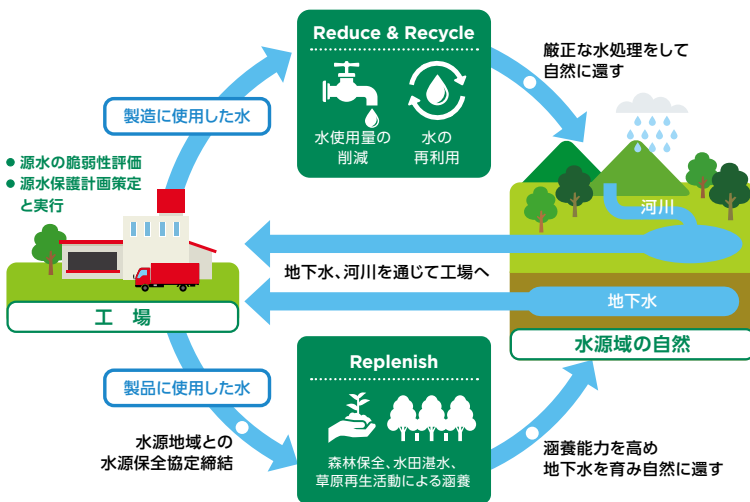
水

CCBJIの水への取り組み

日本のコカ・コーラシステムは、サステナビリティフレームワークにおいて、「水」に関する課題に取り組むべき優先事項のひとつと位置付けており、CCBJIグループでは独自の非財務目標「CSV Goals」で掲げた「2030年までに水使用量を30%削減(2015年比)」および「2025年まで水源涵養率200%維持」の達成を目指し、さまざまな取り組み

を推進しています。

工場では、最新技術を備えた製造ラインの導入、モニタリングによる製造プロセスや工場設備の改善を日々行い、使用する水の量の削減や使用した水の再利用に取り組んでいます。また、工場で製品を製造する際に使用した水と同等量の水を自然に還元することを目的として、地域や自治体と協定を締結し、地域のみならずとともに工場水源域が持続的に水を育み蓄える力「水源涵養力」を高める活動を推進しています。



水

工場水源域における水源保全を目的とした協定の締結

● 白州工場

山梨県と協定を締結

CCBJIと山梨県は、2020年7月に締結した「育水の推進等に関する連携協定」に基づき、山梨県の「育水」(健全な水循環の保全)の推進や情報発信を中心に、水・森林資源の保全と有効活用に関するさまざまな活動での連携を開始しました。

さらに、白州工場の水源域である雨乞岳を頂上とする流川・加久保沢川流域の県有林の協定区域「コカ・コーラ ボトラーズ ジャパン水源の森 はくしゅう」(282ha)を主な活動エリアとし、森林管理の支援にも取り組んでいます。



● 埼玉/岩槻工場

日本製紙と協定を更新

CCBJI、日本製紙株式会社、丸沼高原リゾート株式会社の3社は、2020年12月、水源涵養力の確保を目的とした森林管理における相互連携に合意する協定を更新しました。CCBJIは埼玉工場と岩槻工場の水源地域の環境を維持するために、協定区域(1,746ha)において必要な管理作業(間伐や道路整備など)への支援を行うとともに、森林管理・保全への普及活動に協働して取り組み、必要な助言や情報交換などを行うことで相互連携の強化を進めています。



の普及活動に協働して取り組み、必要な助言や情報交換などを行うことで相互連携の強化を進めています。



製造工場別の水源涵養率
<https://www.ccbji.co.jp/csv/environment/>



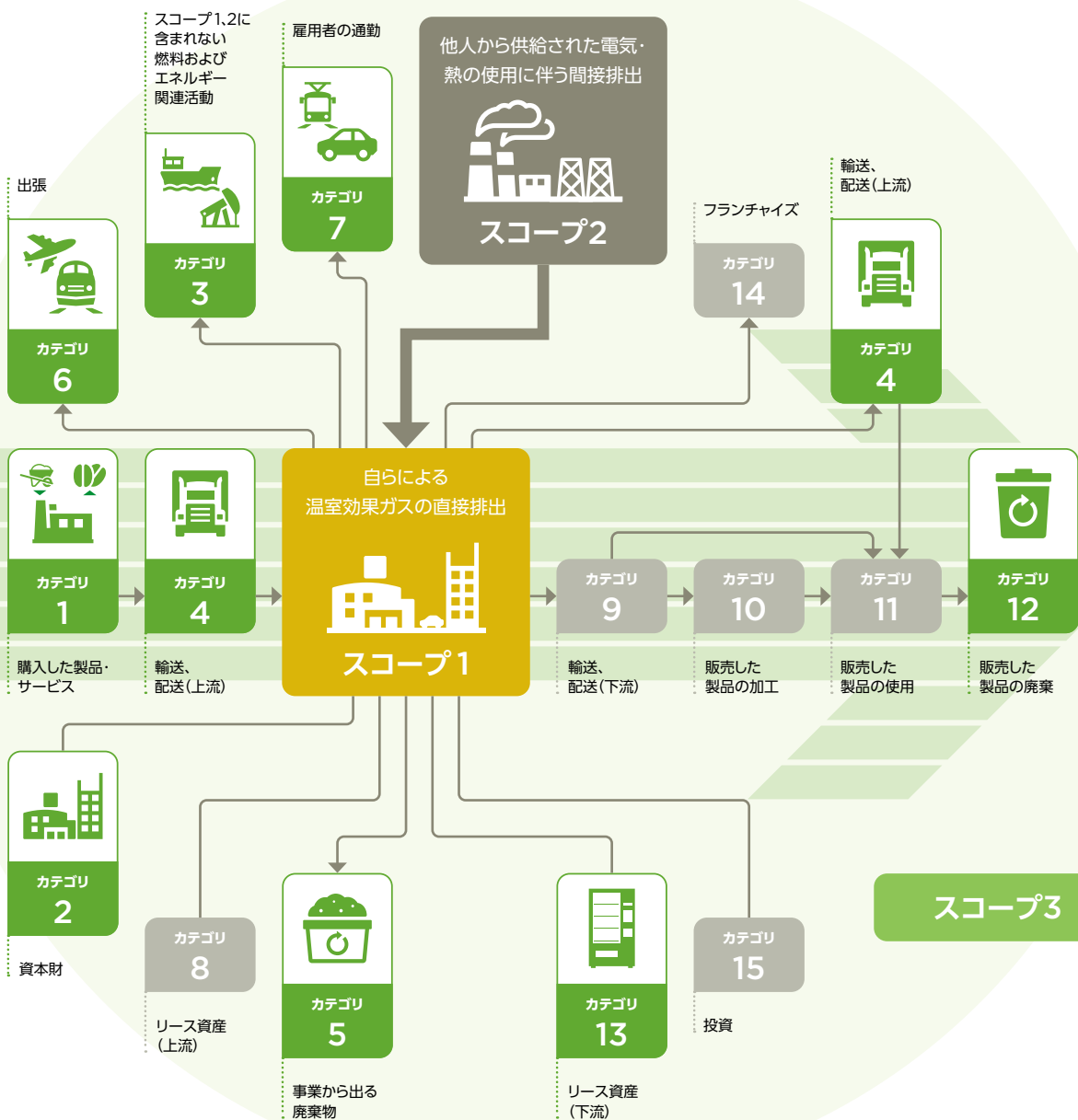
コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト活動紹介動画
<https://www.ccbji.co.jp/csv/community/>



CO₂排出実績および算定方法

事業活動を行うにあたり、気候変動の緩和を考慮することは非常に重要な課題です。二酸化炭素(CO₂)に代表される温室効果ガス排出量を「見える化」することによって、多くのステークホルダーとともに、温室効果ガスの排出実態および対策情報などを把握・共有し、削減につなげるコミュニケーション手段としていきます。

CCBJHグループに関わるスコープ1、2、3の排出源



※ 出典: 環境省・みずほ情報総研「サプライチェーン排出量の算定と削減に向けて」
https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/files/SC_syousai_all_20210319.pdf

CO₂排出実績(2020年)および算定方法

★：第三者保証対象指標

スコープ	排出実績 (t-CO ₂)	排出実績 (t-CO ₂)			算定方法		
		CCBJI グループ	キューサイ グループ	CCBJH グループ (合計)	活動量	原単位	
スコープ1	自らによる温室効果ガスの直接排出	187,599	731	188,330 ★	オフィスやセールスセンター、工場、物流などの燃料使用量	出典:「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(Ver4.7)」(環境省・経済産業省(2021年1月))	
スコープ2	他人から供給された電気・熱の使用に伴う間接排出	175,289	2,181	177,470 ★	オフィスやセールスセンター、工場などの電気の使用量	「電気事業者別排出係数(特定排出者の温室効果ガス排出量算定用)ー令和元年度実績ーR3.1.7 環境省・経済産業省公表」の代替値0.470kg-CO ₂ /kWhを採用	
スコープ	カテゴリ	排出実績 (t-CO ₂)			算定方法		
		CCBJI グループ	キューサイ グループ	CCBJH グループ (合計)	活動量	原単位	
スコープ3	1	購入した製品・サービス	965,724	7,460	973,184	原材料・資材の調達量(重量ベース)	ザ コカ・コーラ カンパニーによるEmissions Factorsに基づく
	2	資本財	204,425	394	204,820	固定資産額(有形・無形)の当年度新規取得額	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver.3.1)に記載された資本財の価格あたり排出原単位
	3	スコープ1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	65,271	431	65,702	燃料・電気・熱の使用量	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver.3.1)に記載された燃料調達時の排出原単位
	4	輸送、配送(上流)	97,491	1,552	99,043 ★	外部委託の輸送による燃料の使用量	出典:「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(Ver4.7)」(環境省・経済産業省(2021年1月))
	5	事業から出る廃棄物	10,325	134	10,459	廃棄物処理・リサイクル委託費用	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver.3.1)に記載された産業連関表ベースの排出原単位(廃棄物処理(産業))
	6	出張	2,166	154	2,321	社員の出張に伴う支払費用	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver.3.1)に記載された交通費支給額あたり排出原単位に基づく
	7	雇用者の通勤	3,693	185	3,878	社員の通勤に伴う支払費用	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver.3.1)に記載された交通費支給額あたり排出原単位に基づく
	8	リース資産(上流)	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
	9	輸送、配送(下流)	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
	10	販売した製品の加工	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
	11	販売した製品の使用	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
	12	販売した製品の廃棄	11,473	222	11,695	容器包装リサイクル法に基づき申請した容器包装のリサイクル重量	サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver.3.1)に記載された廃棄物種類・処理法別排出原単位
	13	リース資産(下流)	352,151	0	352,151 ★	販売機材(飲料自販機)の電力使用量	自動販売機1台当たりの年間電力使用量に当年度の稼働台数を乗じて算出。ただし、電気の排出係数は、一律0.470kg-CO ₂ /kWhを採用
	14	フランチャイズ	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
	15	投資	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
スコープ3	合計値	1,712,720	10,532	1,723,252			

主な環境データ

★：第三者保証対象指標

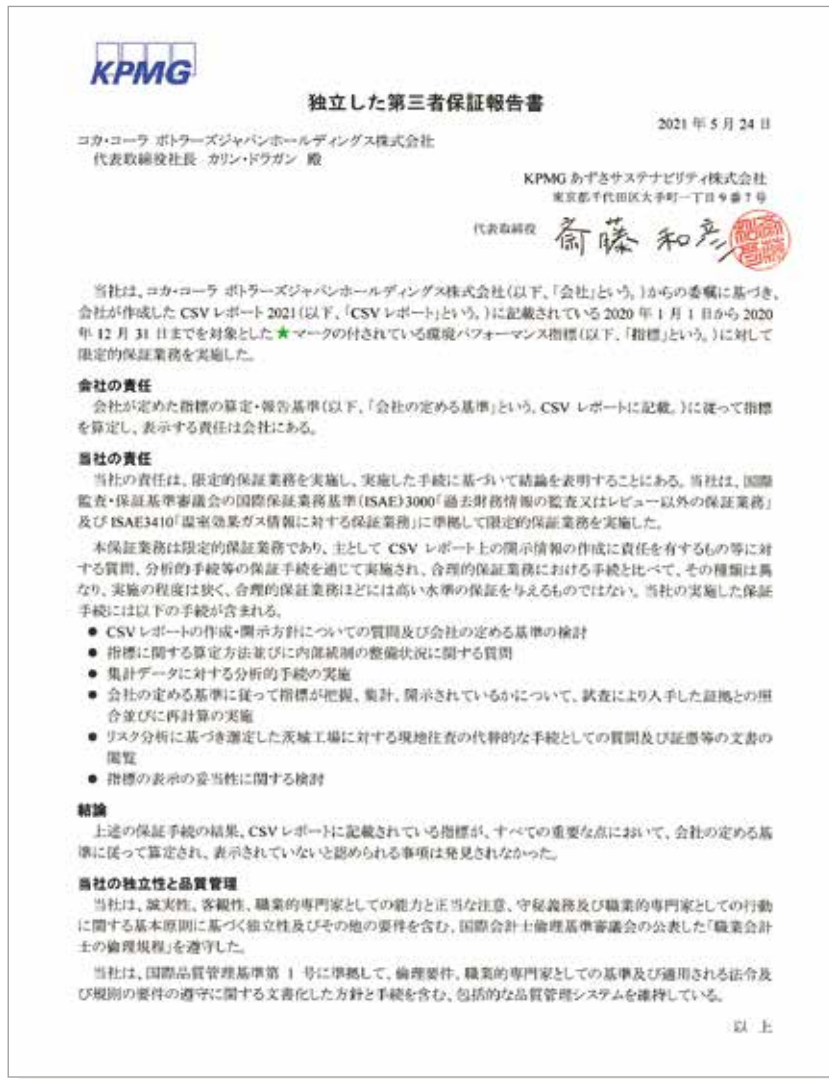
項目		CCBJI グループ	キューサイ グループ	CCBJHグループ (合計)	単位	
原材料	糖類・コーヒー豆・茶葉、ミルクなど	359	3	362	千t	
資材	PETボトル・缶・ダンボールなど	294	1	295	千t	
水使用量	製造に使用した水	12,560	45	12,606	千m ³	
水使用量原単位	製品1Lを製造する際に使用した水	3.23	—	3.23	ℓ/ℓ	
エネルギー使用量原単位	製品1Lを製造する際に使用したエネルギー ^{*1}	0.88	—	0.88	MJ/ℓ	
エネルギー使用量	製造	電気	308,052	3,305	311,358	千kWh
		都市ガス	44,672	0	44,672	千m ³
		LNG	9,309	0	9,309	t
		A重油	1,036	193	1,229	kℓ
		灯油	0	71	71	kℓ
	物流	ガソリン	6,044	517	6,561	kℓ
		軽油	53,646	147	53,794	kℓ
		LPG	848	0	848	t
	オフィス ^{*2}	電気	64,903	1,336	66,238	千kWh
		都市ガス	184	0	184	千m ³
		LPG	93	1	94	t
		LNG	574	0	574	t
		灯油	15	0	15	kℓ
	販売	電気(自動販売機)	749,257	0	749,257	千kWh
	総エネルギー使用量	製造 ^{*3}	5,621,333	43,093	5,664,426★	GJ
物流		2,278,737	23,444	2,302,181★	GJ	
オフィス ^{*2、*3}		691,945	13,386	705,331★	GJ	
販売		7,470,091	0	7,470,091★	GJ	
温室効果ガス(CO ₂)排出量	製造 ^{*3}	272	2	275★	千t-CO ₂	
	物流	155	2	157★	千t-CO ₂	
	オフィス ^{*2、*3}	33	1	33★	千t-CO ₂	
	販売	352	0	352★	千t-CO ₂	
工場廃棄物	総排出量	105,508	59	105,567	t	
	再資源化量	105,364	2	105,365	t	
	再資源化率(再資源化量÷総排出量)	99.9	2.6	99.8	%	
容器の自社回収量	スチール缶	11,131	0.10	11,131	t	
	アルミ缶	10,919		10,919	t	
	ガラスびん	5,238		5,238	t	
	PETボトル	40,064		40,064	t	
	紙容器・段ボールなど	24,728		11	24,739	t
自動販売機	再利用台数	25,449	—	25,449	台	
	使用冷媒のノンフロン化率	79.6	—	79.6	%	
	省エネルギー型ヒートポンプ式自販機の稼働台数	489,048	—	489,048	台	

※1 算定に用いる熱量換算係数は、コカ・コーラシステムが定める世界共通の係数を採用しています。

※2 オフィス領域に該当する事業所の電気使用量およびそれに係る温室効果ガス排出量の集計において、賃借等の理由により事業所で使用する電気使用量を正確に把握することができないため、全406事業所の内26拠点を本年度の集計範囲から除外しています。

※3 工場併設の関連施設におけるエネルギー使用量およびCO₂排出量は、前期は製造領域に含めていましたが、当期よりオフィス領域に含めています。なお、工場併設の関連施設におけるエネルギー使用量は178,577GJ、CO₂排出量は8.5千t-CO₂です。

第三者保証報告書と
算定プロセス



算定プロセス

集計範囲	算定方法
製造 CCBJグループの製造工場(全17工場)、ならびにキューサイグループの福岡こうのみなと工場、キューサイファーム島根	<ul style="list-style-type: none"> 総エネルギー使用量(GJ):(エネルギー種別使用量×熱量換算係数[※])の合計 温室効果ガス(CO₂)排出量(千t-CO₂):(エネルギー種別使用量×CO₂排出係数[※])の合計
物流 CCBJグループの製造工場(全17工場)から市場(お得意先店舗や自動販売機など)までにおける当社グループのビジネスに関連する物流、ならびにキューサイグループの上記工場から市場(お得意先店舗や自動販売機など)までにおけるキューサイグループのビジネスに関連する物流。これらには外部委託の輸送を含む。	<ul style="list-style-type: none"> 総エネルギー使用量(GJ):(エネルギー種別使用量×熱量換算係数[※])の合計 温室効果ガス(CO₂)排出量(千t-CO₂):(エネルギー種別使用量×CO₂排出係数[※])の合計
オフィス 当社ビジネスを運営する建屋(本社、セールスセンター、物流センター、および工場敷地内に設置されている関連施設など)	<ul style="list-style-type: none"> 総エネルギー使用量(GJ):(エネルギー種別使用量×熱量換算係数[※])の合計 温室効果ガス(CO₂)排出量(千t-CO₂):(エネルギー種別使用量×CO₂排出係数[※])の合計
販売 当社販売エリアで稼働する飲料自動販売機	<ul style="list-style-type: none"> 総エネルギー使用量(GJ):自動販売機の年間消費電力量×熱量換算係数[※] 温室効果ガス(CO₂)排出量(千t-CO₂):自動販売機の年間消費電力量×CO₂排出係数[※]

※係数の出典

電気以外の燃料の熱量換算係数およびCO₂排出係数は、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(Ver4.7)」(環境省・経済産業省(2021年1月))より引用
 電気の熱量換算係数は、「エネルギー使用の合理化に関する法律施行規則(2020年3月31日改正)」が規定する「昼間買電」の9.97MJ/kWhを適用
 CO₂排出係数は「電気事業者別排出係数(特定排出者の温室効果ガス排出量算定用) -令和元年度実績-R3.1.7環境省・経済産業省公表」の代替値0.470kg-CO₂/kWhを使用
 [CO₂排出実績(2020年)]「主な環境データ」には、2021年2月1日付で全株式を譲渡したキューサイ株式会社及びキューサイグループ各社の実績が含まれています。